移住コンシェルジュ通信

みかんに特化した大学サークル、東大みかん愛好会の試み

総会には多くのメンバーが集まる

みなさんは東大みかん愛好会をご存知だろうか。東大みかん愛好会は、4年前に立ち上がった大学サークル。現在、東京大学のほか関東圏の大学生を中心に約190人のメンバーで構成されている。はじめはツイッターで知り合ったみかん好きの大学生10数名がこたつでみかんを食べるという単純な活動でスタートしたが、国内のみかん消費量が毎年減っていることを知り、「みかん消費増加」を活動理念として掲げ本格的に活動を始めることとなる。現在この理念に基づき

①話題を巻き起こす
②楽しみながら学ぶ
③全ての産地を応援する

の3つを指針とし活動を行っている。

みかんイベントで話題を巻き起こす。

彼らの代表的な活動実績のひとつが「みかん大配布」。当初は学内イベントでみかんを普通に販売していたが、東京大学のキャンパス内でみかんを無料で大量配布するというイベントを行った。学生を中心とした若者の「みかん離れ」に着目し、消費量増大のためにはまず美味しいみかんを食べてもらい魅力を知ってもらうことが必要と考えたこのイベントは、駒場キャンパス1500個、本郷キャンパス500個を配布することに成功した。また、配布したみかんは日本園芸農業共同組合連合会の協力により無料調達することができた。このように組織や企業などとコラボレーションすることで東大みかん愛好会は活動の幅を広げていく。

団体とのコラボレーションのもうひとつの代表的な例が「みかんカフェ」である。愛媛県とグルメ雑誌「料理王国」の共催でミシュラン2つ星パティシエが手がける柑橘ジェラートを提供し話題となった。そのほか「柑橘ジュースの飲み比べ」や、東大駒場キャンパス内にあるフレンチレストラン「ルヴェソンヴェール駒場」による愛媛県食材を使った料理などイベントは大盛況となった。

大好評となったみかんカフェ

えひめ移住コンシェルジュ
板垣　義男

恒例となった学園祭での出展ブース

楽しみながらみかんを学び、伝える。

大学生である彼らにとって学園祭はビッグイベントであり主な活動フィールドである。学園祭では、みかん販売のほかみかんセミナーなる勉強会を開き、みかんの歴史や美味しいみかんの見分け方をレクチャーしている。これらの知識はインターネットや書籍のほか、実際に現場で生産しているみかん農家さんから生の情報を得ている。このように学生たちにみかんのあれこれを啓蒙するため、全国のみかん農家と常にコンタクトを取っている。また、山口県周防大島町のご当地料理である「みかん鍋」を、東大みかん愛好会のメンバーで再現するなど、ご当地ならではの慣習を実際に行うことにより、彼らは産地の歴史やスタイルを楽しみながら学んでいるのである。

産地にも訪れ、生産者を応援する。

彼らの活動は大学キャンパスだけにとどまらない。愛媛県をはじめ、和歌山、静岡、佐賀、湘南など様々な産地を合宿という形で訪れる。そこでは実際に摘果や収穫の作業に参加するなど、生産者と共に汗を流すことにより信頼関係を築き、美味しいみかんを作る秘訣などを教えてもらう。どの産地のみかん農家さんも彼らを温かく迎えてくれるのだそうだ。中でも松山の離島、中島は設立当初に訪れた合宿先である。中島で活動するNPO法人農音とは、「合格伊予柑」という受験生向け応援メッセージと受験アドバイスを添えた伊予柑を販売するなど、商品開発のコラボレーションにも発展した。

また、佐賀県太良町の「たらみかん」のブランド向上のため、佐賀県、地元柑橘農家団体と共にシンボルマークを募集。876点の応募から優秀作品がひとつ選ばれ、現在でもブランドロゴとして使用している。このように様々な活動を通して生産者を応援している。

みかん夏合宿の様子

4代目代表の赤司大弥さんは、「大学生ならではの発想で奇抜な精神を忘れずに活動したい。そしてもっとこの団体を知ってほしい。」と語る。彼らのような活動は、マニアックにも見えるが、純粋に好きなものを追求することで、すでに社会に大きな影響を与えている。また移住交流施策の観点から見ても彼らの活動はまさに「関係人口」そのものである。「東大みかん愛好会」ならではのアイデアで、今後も企業や団体そして生産者との魅力的で面白いコラボレーションに期待したい。